



★一年間、お付き合いありがとうございました。

ひまわりの夢通信は今回で最終号となります。一年間お付き合いありがとうございました。変則勤務の連絡が取れにくい中で「心に響く瞬間・造形の部」に全職員が気持ちを合わせていく為に生まれた情報共有の連絡帳でした。後半は読み辛い点が多々あったらと思います。今、プロジェクトはアミュー会場の展示品の整理に動いています。写真選定に四苦八苦しています。全員で見て、今年度を楽しく、振り返りたい気持ちになっています。2月27日アミューギャラリー鑑賞には皆さんと一緒に出かけられるようにと思っています。



きみどり：玄関ギャラリー

【投稿広場】★きっかけを作ること

◆Oさんが居室で就寝前の準備を行っていたところ、Y子さんが通りがけに笑顔で立ちどまり、その様子を見ていました。Oさんが少し驚いていたので、「遊びに来たかも知れないね？」と云うとほっとした様子で、ゆり子さんに「いらっしやいよ」と部屋に招待しました。お二人とも、ベッドに座り一時間程会話を楽しみ、「もう少し話したい」「たまにはいいじゃない」と本当に楽しそうでした。様子を伺っていましたが、特段変わった様子もなく世間話を楽しんでいるようでした。二人の昔の日常生活の一部ってこんな感じだったかな～と思い、ほっこりしました。その後のスタッフの声掛けに対してもお二人とも気持ちよく応じてくださいました。何をしたらよいか目的がない様子の時は、見逃さず何かきっかけを作るお手伝いをしたらよいと思いました。

【投稿広場】★通信は終わりですが、にやりハットは続きます。

◆商品名「はくパンツ」の字を見てKさん曰く、「はかないパンツってあるのかな？」と。

【投稿広場】★認知症への「好意的理解」とは？ 前回の続き 吉沢清美(筆名)

Aさん。最後になりますが、お付き合いください。三つ目にお伝えしたいのは、私達が認知症研修で必ずや見せられる以下の図です。問題はこの図の理解の仕方です。

結論から述べます。「中核症状」と「周辺症状」の間には環境的要因があるということです。図でいうと黄色の輪の部分です。つまり中核症状があると、或いは高じると、ひどくなっていますが、それは環境的要因を介して発現していくような気がします。一番の環境的要因とはその人を取り巻く諸関係です。関係の変化(リロケーションダメージ)です。今まで通じていたことが知力の低下・悪化によって、程度は周辺症状の発現の頻度を高める様に思います。記憶障害による知力(適応力)の低下は感情・情動を先鋭にしますし、時として、介護という「支配関係」を持つ人に対して攻撃的になったりします。しかし、中核症状が高じても必ずしも私達を困らせる症状がひどくなるわけではないということ。逆に言えば、関係さえよければ、ある程度緩和できるのではないかと思います。(パーソンドケアという考え方)事実、同程度の中核症状の方々を統計的に調査した結果、温かく見守られている人的環境や寛容的な社会の方が精神的葛藤や周辺症状の発現が少ないことが分かっています。中核症状がたとえ悪化し「痴呆」になろうとも、「純粹痴呆」として(前号で佐藤浩市さんは耄碌と呼んでいましたが、)自然老化の過程としてあるだけです。周辺症状が現れるのは、あるいは、高じるのは本人を取り巻く社会的関係の悪化(ご本人から見ての)によるものが大と思われるのです。

ですから、私達もまた認知症の方々にとっての社会的環境の一員であることを知っておくことが必要です。ここに認知症ケアの領域が、医療とは違ったケアワーカーの使命が広がっていきます。その為、「〇〇という様子が見られた」という観察然とした見方は少し抵抗感が私にはあります。ここでは個々のケースについて言っているものではありません。一つの考え方についてです。更に言えば、このように思いたいという希望です。正しいかどうか?の問題でもありません。個々のケースで私達は手に負えないケースに出会います。私達の能力の低さもあるでしょう。でも無力を感じたとしても、希望を捨ててはいけないと思います。10年前と比較し、進行速度は三分の一になっているそうです。背景には医療や介護についての進歩があるそうです。またまた長くなりました。この先はまたの機会に。今度はお手紙でなく、直接ご意見をお聞きしたいと思っています。それでは、さようなら。追伸 先月出版された「ボクはやっと認知症のことがわかった」長谷川和夫著はまた一つヒントを貰えそうです。

資料

個性的なひまわりが追加されました

きみどりの夏

アミューあつぎ展示会  
2020年2月27日より